

令和6年度 千歳市市民評価会議議事録

会 議 名	市民評価会議（第9回）		
日 時	令和7年2月17日（月）14：00～15：50	場 所	市役所本庁舎2階庁議室
出 席 者	市民評価委員 6名、アドバイザー 1名、事務局 3名		

会議概要	令和7年4月策定予定の人口戦略プロジェクト一部改訂に関する説明を行った。 今年度実施した市民行政アセスの評価結果に対する各担当の対応状況について報告を行い、意見を伺った。 次年度に実施する市民行政アセスについて、委員の意見を基に対象施策の選定を行った。
------	---

ヒアリング・評価内容

◎人口戦略プロジェクトの一部改訂について

－事務局から資料1のとおり説明－

【委員A】

現在の観光入込客数は何人となっているのか。

【事務局】

189万人となっている。

【委員A】

数値目標が大きく減っているが、これは新型コロナウイルス感染症の流行によるものか。それとも計算方法を変更したのか。

【事務局】

計算方法に変更はない。過去の観光入込客数の伸び率等を参考に再計算したものである。

【委員B】

電車通勤をしていると、今では新型コロナウイルス感染症の流行以前かそれ以上の賑わいを感じる。令和12年とまだまだ先のことはあるが、かなり控え目の数値ではないか。これ以上伸びないという予測なのか。

【事務局】

見込みきれない部分もあるが、観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症の流行により令和元年には450万人だったものが令和2年には140万人にまで落ち込んでいる。現在はそこから復調しているように見えるが、数字の面では追いついていない。また、これまで観光入込客数の計測地点として千歳アウトレットモール・レラが含まれていたが、閉店してしまったことも見直しの要因のひとつとなっている。

【委員B】

モニタリングの仕方が悪いのではないか。観光客が来ているのに千歳市に関連するモニタリングが悪く、あたかも交流人口が少なく見えているのであれば勿体ない。千歳市をスルーしていくイメージになってしまう。

【事務局】

計測方法については適切なものを今後も研究していきたい。

【委員C】

この資料中ではアルファベットで「Rapidus」と表記しているが、千歳市のウェブサイト上では「Rapidus 社」であったり、カタカナで「ラピダス」であったりしている。略称はどのように表記するのが正しいのか。

【事務局】

今回、「千歳市将来ビジョン」と「千歳市人口ビジョン」をそれぞれ策定・改訂するにあたり、この2つの間では「Rapidus」と統一したところであった。庁内で十分に統一されておらず、表記にバラつきがあるが、行政文書という性質上、カタカナで書いたほうが理解を得られやすく相応しい場合もある。

◎評価結果に対する各担当の対応状況について

(1) 道路の整備・管理

－事務局から「令和6年度市民行政アセス追跡シート」のとおり説明－

【委員B】

SNSでの周知とは具体的にはどのようなものを指しているのか。

【事務局】

例えば、市公式LINEで工事による通行止めの情報を一斉送信している。

【委員B】

LINEだと登録した人にしか送られないのではないか。

【事務局】

そのとおり。このため、市公式ウェブサイトでも周知している。

【アドバイザー】

市公式LINEの登録者数は3万人ほどとなっており、人口から考えるとなかなかの登録率となっている。一方的かもしれないが、ウェブサイトに掲載するだけと比べると効果は大きい。

(2) 地域と連携した除雪・排雪

－事務局から「令和6年度市民行政アセス追跡シート」のとおり説明－

【委員C】

「担当課の対応状況」欄を見ると、人員体制について千歳市側の人手不足に対する認識が変わったように思う。

【委員B】

資料中の（評価を受けた感想）部分にあるように、大きな課題であると認識していただいたようである。

(3) 低所得者の福祉の充実

－事務局から「令和6年度市民行政アセス追跡シート」のとおり説明－

【委員B】

重層的支援体制整備事業とは、端的に言うところのどのようなものか。

【事務局】

高齢者、障がい者や生活困窮者などに対する相談は各担当部署で行っているが、ひとつの相談内容が複合化・複雑化しているケースもある。そういった場合に備え、担当間で情報共有しながら対象者を支援する体制を整える事業となっている。

【委員B】

電子連絡帳がその助けとなるツールなのか。

【事務局】

そのとおり。様々な情報を一か所にまとめるものとなる。今後、この体制を構築するための部署が庁内にでき、会議の音頭をとるなど中心となって様々なニーズに応えることとなる。

【委員B】

便利になるのは素晴らしいが、庁内が複雑にならないよう、DXの力を使うなど職員の負担も考えてほしい。

（４）アイヌの人たちの福祉の向上

－事務局から「令和6年度市民行政アセス追跡シート」のとおり説明－

【委員B】

以前から議論になっていることであるが、福祉と文化継承の問題が複合化しデリケートで難しいと思うので、今後も頑張っていたきたい。

（５）健康増進・疾病予防対策の充実

－事務局から「令和6年度市民行政アセス追跡シート」のとおり説明－

－委員から特に意見なし－

（６）学びを支える環境づくりの推進

－事務局から「令和6年度市民行政アセス追跡シート」のとおり説明－

【委員A】

ミナクールは入口がわかりにくい。ほかのまちであれば学生は図書館で自習しているが、千歳市の場合は図書館が駅から遠く、学生が勉強しやすい環境が駅の近くにあると良いと考えている。現在は駅ビルの共有スペースが自習スペースになっているように見受けられる。ミナクールがそのような場所になれば良いと思うのだが、目的が合わないのか。

【事務局】

どちらかと言えば高齢者の方々が中心に、市民活動の拠点として利用している。

【委員D】

②と③の指標が変わったことによって本当に市の関与が見えるようになるのか。

【事務局】

見直し前の指標は広報揭示数などを設定しており、市民団体側からの依頼ありきで、市が関与している数値ではないというご意見をいただいていた。このため、ミナクールが実施するイベントへの参加人数としたものである。

【委員D】

それでは見直し前と同じで、市民活動団体が行ったことと変わらないのではないのか。

【事務局】

見直し後の指標は、そもそもミナクルが実施することは委託元である本市の事業であるということと、市の担当課が行っている普及啓発活動も参加人数の増加に結び付いているということから設定したものである。

【委員B】

このような指標だと、人数が減少した時に市としての頑張りが見えなくなってしまう。人数が増加又は維持している間は問題が顕在化しないが、そこを適切に反映できなければ指標として相応しくない。

【委員C】

現在、既にピーク時から減少している。

【委員B】

例えばこのようなものといったアイデアがなく申し訳ないが、指標としては市としての頑張りが見えるものが相応しいだろう。

【アドバイザー】

これまでの会議で委員から強く意見として出ていたのは、まちライブラリーとミナクルの区別化が必要だという点である。

担当課の対応状況②及び③の部分を見ると、「生涯学習事業の実績や充実度を図ってまいります。」と結んでいるが、この“生涯学習事業”という意識が区別化を阻んでいるように見受けられる。市民協働のまちづくりのための人材育成や市民活動の推進という元々の機能の部分が整理できていない。

また、施策に対する取組の方向として「まちづくりの活動を支える人材の育成や活用を推進します。」となっているが、この部分に対する対応状況が書かれていないため、市民評価会議からの「ミナクルは、市民協働を推進するための第三者機関であるべき」という意見が上手く伝わらなかったと感じるのかと思う。ただし、教育部の施策ということを考えると、基本目標の達成には繋がっていくだろう。

【委員A】

そのとおりだと考える。市では最初から生涯学習課がこの仕事をしていたのか。少し違和感がある。

【事務局】

市直営だったときは生涯学習課が担当していたが、当初はひとづくり推進課という部署が所管していたはずである。

【委員E】

そのとおり。当初はひとづくり推進課による、人材育成によってまちづくりを推進するという事業であり、市の企画部が所管していた。その後、生涯学習と統合され大きくなっていったと記憶している。

【委員A】

ヒアリングの際も話がずれていると感じた。

【事務局】

そのような経過を知らない担当職員もいるだろう。

【アドバイザー】

時代に合わせて施策を変えていくのは正しいことであり、今回の部分も年々変わっていくことに問題はない。ただ、市民目線との差が大きく出てくるようであれば、その差を埋めるための何かが必要となってくるだろう。

【委員B】

特にクレーム等がないのであれば、市民目線からすると、まちライブラリーとミナクルの住み分けができているのかもしれない。

【委員D】

例えば、プリンター等の備品が適切に更新されるなど、施設の充足度を指標とすれば市の取組が見えるようにならないか。

【委員C】

第三者から評価がなされていないのが問題だと考える。利用者の満足度を調査しても、利用しているのだから結局は満足となってしまうだろう。

【アドバイザー】

例えば、スポーツ施設に関する施策では、施設側から希望があった部分をしっかりと修繕する等、レスポンスが評価に繋がる。この施策でも、市民活動に関する相談がこれだけ寄せられて、相談に対してどれくらい取り組んでいるというような評価は可能だろう。

【委員B】

新たな指標を設定していただいたが、引き続き適切な指標を考えていただきたい。

【事務局】

担当課には随時見直しを検討するよう伝える。

（7）学びで育むまちづくり活動の充実

－事務局から「令和6年度市民行政アセス追跡シート」のとおり説明－

【委員D】

新たな指標は学校による評価（支援ボランティアに対する満足度）ということか。

【事務局】

そのとおり。

【アドバイザー】

支援ボランティアに協力いただいている学校からすると悪く書けないのではないか。支援ボランティアの方が来てくれなくなってしまう。

【委員B】

数の評価から質の評価へと変わったため、指標としては良くなっている。

【アドバイザー】

学校側だけでなく、支援ボランティアの方からもアンケートをとれば良いかもしれない。支援ボランティアの方から「支援してよかった」と思ってもらえれば、市民協働の形が見えてくる。

【事務局】

個人的にこの支援ボランティアに参加しているが、支援の際に学校側から意見を求められ、何かあれば提出している。ただし、それに対する評価等は返ってきていない。

【委員D】

対応状況③の登録誓約書を提出させることは、出前講座の質の向上になるのか。

【委員C】

向上はしないだろう。担保ではないか。

【委員B】

自分でチェックをつけるだけの誓約書だと思うが、一步前進といえるだろう。

（8）森林の整備と保全

－事務局から「令和6年度市民行政アセス追跡シート」のとおり説明－

【委員E】

先日の新聞で、子供たちを対象として木製品のワークショップを行ったという記事を見た。そのような取組を続け市民に理解を得られれば、「拡充」という評価への突破口になるかもしれない。

【委員B】

担当課の「拡充」という自己評価を、市民評価会議としては「維持」ではないかと提案したのはなぜだったか。

【事務局】

今後、事業が展開していくものには思えないということであった。

【委員A】

国から与えられたお金を使わなくてはならないため、大変だろうということは理解できる。

【アドバイザー】

市民評価会議からの意見として、市民生活に波及する取組にすべきとしたが、取組の対象は子供のみのようである。

【委員E】

新聞で見たのも小学生くらいまでだったように思う。今後は更に対象の年齢層を広げてほしい。

【アドバイザー】

担当課としては木育の印象が強いようである。

【委員B】

話が逸れてしまうが、木育の効果とはどのようなものだろうか。

【委員D】

簡単になってしまうが、自然環境を身近に感じることはないだろうか。

【委員C】

対応状況③については、市民評価会議として例示したものとの繋がりが見えない。

【委員B】

当たり障りのない回答となっている。

【アドバイザー】

この施策を本当に展開していくのであれば、相当クリエイティブな発想が必要だろう。

【委員C】

環境に関するビジネスは急成長分野であり、力を入れるべきである。民間と比べると出遅れている。

【委員B】

意識の上では「維持」ではなく、「拡充」で取り組んでいただきたい。

（９）交通安全対策の充実

－事務局から「令和６年度市民行政アセス追跡シート」のとおり説明－

【委員E】

市公式ウェブサイトで交通安全指導員の募集をよく見かけるが、希望者はあまり集まっていないのか。

【事務局】

足りていないと思われる。

【委員E】

我々も以前から要望し続けているが、募集しても集まらないところを見ると、実際に定数を満たすことは難しいのだろう。

【委員B】

全体的に論点がずれているように感じる。特に②は、はぐらかされているように感じる。

【事務局】

担当課としても啓蒙活動の成果を測る指標としてふさわしいものを選ぶのに苦慮したようである。

【委員B】

市の施策が反映される指標にしてほしい。対応状況③は、本当に外国人や観光客別のデータはないのか。

【アドバイザー】

外国人については、外国免許所持者による事故数が統計で出ているはずなので、少なくとも都道府県警察は把握していると思われる。旅行客については、データがないと思われる。

【委員C】

旅行客といっても、国内旅行者とインバウンドの違いもある。

【アドバイザー】

国際免許を持っていて、日本で働いている外国人もいるだろう。

【委員C】

外資系の観光タクシーの役員をされていて思うが、外国人は運転に対する意識が違う。我々は事故をもらわないように予防運転をするが、外国人にはその考え方がない。考えの違いから起こるべくして起こる事故もある。

【委員B】

市がアプローチする手段がない以上、関与するのは難しいのかもしれない。

【委員E】

警察にも問題意識はあり、レンタカー店付近で交通指導しているケースがある。

【委員C】

最近では外国人にレンタルしないレンタカー店も増えているようである。ただ、規制はできないため、国は報道等で啓発に動いているようである。市として啓発しても完璧には防げないというジレンマは感じる。

【委員B】

対応状況④は、新たに情報提供を開始したとのことであり、着実に良くなっている点もある。

(10) 防犯対策の充実

－事務局から「令和6年度市民行政アセス追跡シート」のとおり説明－

【委員B】

街路灯と防犯灯の違いをもう一度確認したい。

【委員E】

防犯灯は町内会が購入するものである。

【委員B】

防犯灯の電気料金は市が負担するのか。

【事務局】

そのとおり。

【アドバイザー】

例えば、札幌市では市が防犯灯を取り付けている。自治体によって取扱いが異なる。

【委員B】

LED化の推奨とはどのようなことを指しているのか。

【事務局】

町内会への周知などである。

【委員C】

一部の町内会で水銀灯への取換えが進んでいない。

(11) 開かれた行政の推進

ー事務局から「令和6年度市民行政アセス追跡シート」のとおり説明ー

【委員B】

「要覧ちとせ」製本版の有料化について、この場で議論が盛り上がったと思うが、まだ有料化するフェーズではないということか。

【事務局】

担当課としてはそのような判断に至っている。

【委員B】

市民評価会議としては、もう少しビジネスライクに対応してもよいのではという趣旨の提案だったか。

【委員C】

そのとおり。最近は一般的にデータや統計資料を無料で開放することは少ない。

【委員B】

市役所に対してビジネスライクというのも間違いかもしれないが、廃案にすることなく今後も検討してほしい。「ちとせ図鑑 舞う千歳」はどこで入手できるのか。

【事務局】

本庁舎市政情報コーナーに配置するなどしている。

【委員B】

どのような内容か。

【事務局】

元々は写真集であったものを、千歳市をPRできる冊子に作り替えたものである。市民向けというよりは、市外の方に向けた内容となっている。

◎令和7年度「市民行政アセス」について

ー事務局から「第7期総合計画施策一覧（アセス対象施策選案）」に基づき説明ー

【事務局】

第7期総合計画の施策数は、全102項目となっている。10年間でこの全てのアセスを行うため、年10件程度を選定しており、これまでアセスを行ったところを除き、担当課のバランスが良くなるよう選定したい。選定の参考として、施策番号12・14・18・43・44・65・68・80・85・86・98番の11項目を事務局案として提示したが、委員の皆様の希望に沿って行いたいと考えている。

【委員C】

市民評価会議に意見を求めたいという施策はあるのか。

【事務局】

特になかったため、あくまで全体のバランスを考えた案となっている。ただし、以前 Rapidus 関連の施策について話を聞いてみたいという意見があったため、65番を案に含めている。

【委員A】

次年度は、令和6年度に行った事業についての評価ということか。

【事務局】

そのとおり。

【委員C】

それならば Rapidus 関連の施策も 8 年度以降の方がよい。81・82 番の交通関係の評価をするのがいいのではないか。2024 年問題への対応の話が聞けるかもしれない。

【委員A】

43・44 番は、現在国会で盛んに議論されており、これから動きがあるかもしれないため、後年に回してもいいのではないか。

【アドバイザー】

仮に無償化となれば、アセス後に大きな動きが出ることになるので後年に回したほうがよい。

【委員D】

コミュニケーション条例が施行されるため、福祉や障がい者に関する分野も後年に回していいのではないか。

【委員E】

コミュニケーション条例はいつから施行となるのか。

【事務局】

令和 7 年 4 月 1 日を予定している。施行後 1 年間の動きを見たいのであれば 8 年度に回してもいいかもしれない。

【アドバイザー】

避難行動支援個別避難計画の関係や民生委員の関係はタイミングがいいかもしれない。

【事務局】

令和 7 年 4 月 1 日から地域福祉計画が変わるため、民生委員の関係は後年でもいいかもしれない。

【委員C】

60・61 番の支笏湖チップ関連は、ブランド化もされ、時期的にはよいのではないか。

【委員B】

これまでの意見をまとめると、事務局案から 12・43・44・65 番を除き、60・61・81・82 番を追加することとなる。よって、次年度に実施する市民行政アセスの対象は、

14「子育て支援や児童の健全育成の拠点の充実」

18「国民健康保険・後期高齢者医療制度の適正な事業運営、国民年金制度の普及」

60「支笏湖チップの資源保護と増殖」

61「支笏湖チップのブランド化」

68「千歳市公設地方卸売市場による食品の安定供給」

80「新千歳空港の機能拡充の促進」

81「公共交通機能の充実」

82「交通結節機能を高める環境整備」

85「治水の推進」

86「河川環境の整備」

98「まちづくり情報の発信力の強化」

の 11 施策となるが、バランス的に問題ないか。

【委員E】

教育関係の施策がないのは問題ないか。

【事務局】

委員の皆さまの意見が今のまとめたものであれば、特に問題ない。

【委員B】

それぞれの施策の時間軸がわかる資料があってもいいかもしれない。市民評価会議としては先

ほどのとおりとする。

【事務局】

担当課と調整を進める。

◎その他

【事務局】

令和7年度の会議日程については、後日共有させていただく。